

ドイツ NOW 6 月号

国際交流委員会 2年8組 鎌倉航 小滝結奈

ドイツ NOW6 月号は「ネットでは調べられないドイツの気になる3つのこと」について取り上げました。Franjo さん、インタビューにご協力いただきありがとうございました！

☞ About the answerer!

He is a student of Ludwig-Leichhardt-Gymnasium (sister school) and 15 years old. He has many different friends and he really like Bürger.

1, Which SNS is mainly used in Germany?

1つ目はドイツで広く使われている SNS について聞いてみました。

ドイツでは「WhatsApp」というアプリがよく使われているようです。WhatsApp は世界で広く使われている SNS アプリで、LINE の 10 倍以上のユーザーに使われています。また、「Discord」もよく使うとのことでした。Discord は主に友達とのやりとりに使っているようです。調べてみたところ、Discord は用途ごとにテキストチャンネル、ボイスチャンネルを作れたり、bot を導入することで様々な機能を利用できたりと便利なアプリだなという印象を受けました。

また、Instagram や Twitter も日本の高校生と同じように使っているようです。



2, What ○○ are in fashion among German students?

2つ目はドイツの高校生の中で今何が流行っているのかについて聞いてみました。

① 食べ物

チョコやグミのお菓子「HARIBO」などをよく食べるそうです。ここは日本の高校生とあまり変わりませんね。HARIBO はドイツ発祥のお菓子で、日本のコンビニでも買うことができます。他にも、ピザ、パスタ、寿司、中華料理、インド料理、アフリカ料理など様々な国の食べ物をよく食べていると言っていました。

② 音楽

ヒップホップだけではなく、ドイツのラップが流行っているそうです。

下の QR コードからドイツのラップが聞けるので、興味のある方は聞いてみてください！

Olexesh x HellYes x Joker Bra - BLOCK [Official Audio Single]



③ 漫画やアニメ

ドイツで漫画やアニメを見る人はとても少ないそうです。しかし、ドイツで「Abrafaxe」という会社が発行している「Mosaik」という漫画は特別で、とても人気な漫画だそうです。Mosaik はドイツ語だけではなく、他の言語にも翻訳されてヨーロッパやその他の地域でも読まれています。発行が始まったのは 1955 年で、これまでに 2 億冊以上も販売されてきた大人気の漫画となっています。

3, How to take pictures in Germany

3つ目は写真の撮り方についてです。

日本にはアプリを使って写真を加工したり、プリクラを撮ったりなど、写真を撮るためのツールだけでもたくさん種類があります。ドイツの高校生はどのように写真を撮るのでしょうか。聞いてみました。

☞写真加工アプリを使いますか？

ドイツでは「Snapchat」などのフィルターを使っている人が多いです。しかし、家族写真などにはあまり使いません。

>Snapchat は写真の加工が出来るだけでなく、フレンドとチャットやストーリーなどの機能も使えるアプリです。

☞何の媒体で写真を撮りますか？

スマホで写真を撮ります。

☞日本でいうプリクラのような機械はありますか？また、それを使いますか？

ありますが、誰かが使っているところは滅多に見たことがありません。

日本の中高生に大人気のプリクラも、ドイツではほぼ使わないそうです。プリクラは、日本の文化と言ってもいいのかもしれないですね。

いかがでしたか？ドイツと日本の違いや共通点を楽しんで貰えたら嬉しいです。

次号はドイツの学校について特集します！お楽しみに！

The World Times -6月号-

2-1 井上穂乃花 2-9 鈴木優花

今月は、大宮高校の理数科 23 期生で、東京大学大学院でバイオインフォマティクス(生命科学と情報学が融合した学問)を学ばれているゆうなさんに、インドでのインターンシップの経験やSDGsについてお話を伺いました。

Q. なぜ、インドにインターンシップに行くことにしたのですか？

A. 大学3年生で卒業後の進路を決める際に、自分に目標がないことに気づいて、そんな自分を変えたいという気持ちがありました。たまたま知り合いの日本人がインドで塾を経営していたので、大学4年生になる前に1年間インドに行くことになりました。

Q. インドではどのようなことをしましたか？

A. ビジネスとはどういうものなのかを学んだり、今ある課題とそれを改善するにはどうすればよいかを自分で模索したり提案したりしました。塾には日本人生徒とインド人生徒がおり、特に両親の仕事の都合等でインドにいる日本の子供たちは、現地の言葉だけでなく日本語もしっかりと勉強しておく必要があることを痛感し、教育の大切さがわかりました。



Q. インドで日常生活を送るにあたって感じたことは何ですか？

A. インドは日本ほど衛生面に関して厳しくなく、ヨーグルトやパイナップルにカビが生えていたり賞味期限切れの食べ物がたくさん売られていたりします。日本ではまずないことですが、そういうのを見ていると何でもいいのかな、という気分になれました。ただ、市場や住んでいる場所の衛生状態や野良犬にかまれて亡くなる人のことを考えると、まさにSDGsの問題だと思います。一方、野生の動物は街中にたくさんいて、リスやブタ、ヤギがいたり、道路を牛、馬が車とともに走っていたりして面白い国だと思いました。

Q. IT 大国ならではの体験はありましたか？

A. インドは IT 大国に感じますが国内ではそのような特徴はあまり見られず、一日に何度も停電があって、Wi-Fi がとても弱く動画がスムーズに見られないことも多くありました。また、インドの能力のある人はみんな海外に流出してしまっているため、国内の発展にはあまりつながっていないように感じました。

Q. インドに行って自分の考え方が変わったことはありますか？

A. 実際に考え方が 180 度変わりました。ひとつには自分が辛いと思っていたことがちっぽけなことだったと感じました。失敗は怖いことでないし、失敗からこそ学べることもあるので、自分が決めたことを辛いと思うのをやめようと思い、精神的にも強くなりました。

そして、インドの現状に対して今の自分は何もできないことに気づき、どうしたら困っている人を助けることができるのかと考えた結果、自分が勉強してきたことを活かすために大学院進学を決めました。今いるのは新領域と呼ばれる様々な分野が融合しているキャンパスなのですが、インドで教育という専門ではない分野に関わって客観的にものを見る力になったと思うので、自分からいろいろなことに挑戦することにしています。

SDGs in India

貧困をなくそう・飢餓をなくそう・
すべての人に健康と福祉を

インドは富裕層と貧困層の差が激しいです。一部の富裕層が何億円も持っていて、それ以外の貧しい市民は百円ほどしか持っていない、というレベルです。実際、道端で赤ちゃんをかかえたお母さんが立っているのを見かけることがよくありました。そのような子供たちは認知されていなく、教育も受けられない人もたくさんいます。私が働いていた場所でも、戸籍がなく自分の誕生日や年齢を知らないと話してくれた人がいました。また、街中では物乞いをする人もたくさんいます。車に乗っているときに信号で止まると、子供たちが車のドアをたたいて、お金をせがんだり物を買ってほしいと頼んだりすることも多くありました。貧困を解決しないと、飢餓も健康や福祉の問題も解決できないと思いました。



編集後記

今回、実際にその国に行った方の話を聞くことで、本やテレビだけではわからない雰囲気がよく伝わってきました。また、自分の進路に直接は関係ないと思っていることでも、挑戦することで思いがけず将来に繋がることがあるということを体験談として聞くことができ、今まであまりピンときていなかったけれど大切なのだと分かりました。SDGsの問題は、自分たちが想像していたよりも様々な要因が絡んでいて、今の私たちができることはとても少ないですが、今回のインタビューを通じてたくさんの課題について知ることができたので、身近なことからできることを探していきたいと思います。ゆうなさん、ありがとうございました。

<国際交流委員から>

こんにちは！今年の World Times は、『SDGs』にフォーカスをあてて1年間新聞を出します。SDGsとは世界の達成すべき17の目標を示したものです。世界の問題について知るきっかけになれば幸いです！ぜひ総探などにも活用してください！

<今年のスケジュール>

○姉妹校生徒との ONLINE 交流
○9月 文化祭：ゲーム等の企画をします！ぜひお越しください！
○11月 REALs (Reach Alternatives ID；日本紛争センター) 代表 瀬谷ルミ子さんの講演会
9月号で詳しくお知らせします！

質の高い教育をみんなに・ジェンダー平等を実現しよう・
エネルギーをみんなに、そしてクリーンに

公には廃止されたものの国民の意識に残っているカースト制度により、親の職業を継ぐことが多く、勉強のモチベーションに繋がらない人が多くいます。このような制度を根本からなくさない限り、教育だけでは意識が変わらないのではと思いました。また、インドでは女の子が生まれるとすぐに殺されてしまうことも多くあります。これは男の子のほうが利用価値があると考えられているためです。同時に、女性が軽視されるカースト制度にもよると考えられます。

さらに、私が住んでいたグルガオンは外国人の多い地区ではありますが、世界で一番大気汚染が進んでいて、その汚染度はなんとタバコ33本分と言われています。けれども大気汚染が問題だという意識はあまりありません。どの問題も、それがよくないと教育で教えていくことが大切だと思います。また、汚染の原因は工場や車の排気ガスですが、それを作っているのは日本も含めた先進国です。

パートナーシップで目標を達成しよう

パートナーシップを達成するには、相手の国のことを理解する必要があります。国によって性格、教育、暮らしが違うため、他の国で自分と考え方が違うのは当たり前です。しかしその相互理解が難しいです。特にビジネスにおいては、考え方が違うことが原因で衝突が起こることもよくあります。例えば、日本ではあらゆる期限を守るのが当然ですが、インドではそれは重視されていないため、期限をめぐってトラブルになることがありました。SDGsは全世界でやっていくことなので、仮に理解できないにしても、文化の違いを受け入れるのが大切です。